

【技術の名称】 東京鉄鋼式 柱 RC 梁 S ハイブリッド構法 ーふさぎ板を用いた非梁貫通型柱RC梁S接合部構法ー (改定1)	性能証明番号：GBRC 性能証明 第18-21号 改1 性能証明発効日：2021年5月21日 【取得者】 東京鉄鋼株式会社
--	---

【技術の概要】

本技術は、鉄筋コンクリート (RC) 柱と鉄骨 (S) 梁との接合部を構築する構法である。接合部にはふさぎ板、およびダイアフラムを用いることで、S 梁が接合部を貫通しない非梁貫通型形式としている。ダイアフラムにはコンクリート充填孔、および RC 柱主筋貫通用孔を設けることができ、プレキャスト部材として製作するための工夫がなされている。

なお、本技術の柱梁接合部のプレキャスト部材は、柱梁接合部を単体製作する「分割型」と柱梁接合部と柱を一体で製作する「一体型」がある。

【改定の内容】

新規：GBRC 性能証明 第18-21号 (2019年1月29日)

改定1：GBRC 性能証明 第18-21号 改1 (2021年5月21日)

- ・適用範囲の拡大 (段差梁・偏心梁を可、梁せいと柱せいの比)
- ・使用材料の範囲拡大 (接合部鋼材・鉄筋、柱主筋の製造メーカー制限の緩和)
- ・構造規定の追加 (ダイアフラムに空気孔設置)

【技術開発の趣旨】

従来の混合構造架構は、S 梁が柱梁接合部を貫通する形式 (梁貫通型形式) が一般的であり、接合部のコンクリートは現場打設となることが多い。

本技術は、接合部金物を非梁貫通型形式にすることで、ロボット溶接機の使用による生産性の向上と加工費削減を図り、かつプレキャスト部材として製作することで、建設現場の施工品質向上、工期短縮、および労務不足の解消を図ることが可能となる。

【性能証明の内容】

本技術についての性能証明の内容は、以下の通りである。

申込者が提案する「東京鉄鋼式 柱 RC 梁 S ハイブリッド構法 設計施工指針」に従って設計・施工された柱 RC 梁 S 接合部は、長期荷重時に使用上支障となるひび割れ等の損傷を起こさず、短期荷重時に修復性を損なうひび割れ等の損傷を起こさない。また、同指針に従い求めた終局せん断耐力以上または終局支圧耐力以上の耐力を有する。

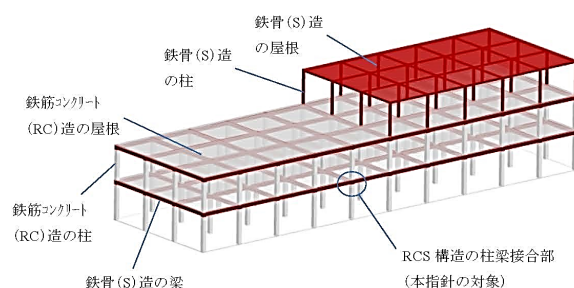


図1 本指針を適用した建築物のイメージ

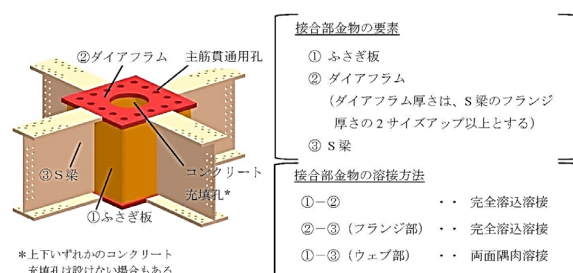


図2 対象とする接合部金物のイメージ

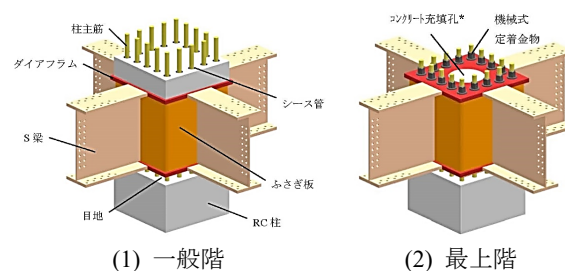


図3 分割型の接合部形式のイメージ

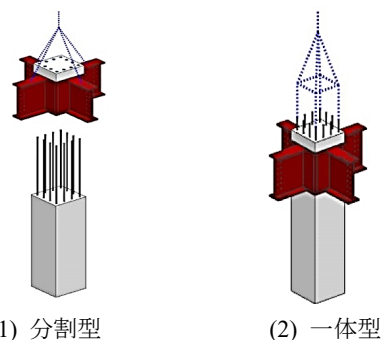


図4 プレキャスト部材のイメージ

【本技術の問合せ先】

東京鉄鋼株式会社 担当者：瀬出井 康志
〒323-0819 栃木県小山市横倉新田 520 番地

E-mail：yasushi_sedei@tokyotekko.co.jp
TEL：0285-28-1771 FAX：0285-28-1717